

第32回

森

とのふれあい



今年度最初のイベント、第32回「森とのふれあい」『森の手助け・植樹と炭焼き体験』を5月14日（日）に実施しました。

北海道国土緑化推進委員会から「緑と水の森林基金」事業助成金を受けての植樹と炭焼きを行う体験林業です。

当日は、小雨まじりの天候でしたが22名の参加がありました。

午前中は知床の山で「植樹」、午後からは知床森林センターに場所を移して「炭焼き」を体験してもらいました。

植樹会場に向かうバスの中で森林の育て方や森林の役割などの説明を行い現地に到着。

植樹前に記念撮影の後、準備体操、注意事項、植樹の実技指導等を行い、道具の鋸を手



に各々アカエゾマツを200本植樹しました。参加者の中には初めての人もおりましたが、すがすがしい森の空気をいっぱい吸って心地よい汗を流していました。

午後からは、センターにおいて炭焼き体験です。

参加者の皆さんには、原木を切る作業から窯に詰めて着火までを体験してもらいました。

レジャー用として主に使用されていた炭も、最近では水や空気を浄化する浄化剤など幅広い用途があるなど職員からの説明を受け感心していました。

帰りには、参加者全員に出来上がった炭を持ち帰っていただき、今日一日の新しい体験を楽しく終えることが出来たようです。

朱田小学校生徒  
春の遠足感想川柳



きょう きつつきのあなが ありました  
一年生 中島 悠輔

春の遠足 あつくてあつあつ むんむんむん  
三年生 羽田野 さやか

不思議な沼 おたまじゃくし いたんだよ  
四年生 可児 亮太

平成12年7月第67号

知床の森から



「ゲラちゃん」

知床森林センターシンボルマーク

北海道森林管理局北見分局 〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地  
知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160  
ホームページ http://www.siretoko.knc.ne.jp/

知床では、少し山に入れば  
まだクマガラに逢うことが  
できます。

斜里町立朱田小学校 春の遠足

幻のボンホロ沼で森林教室開催

6月13日、斜里町立朱田小学校の春の遠足が行われ、その一部として当センターから職員を派遣し森林教室を開催しました。

コースはボンホロ沼とプユニ岬です。当日は天気に恵まれ、知床横断道路沿いでバスを降りた児童28人と先生5人の計33人を、センター職員が2班に分かれて林内歩道へと先導しました。

まず、サルノコシカケ(ツリガネタケ)がマンションの様に連なっている木の前でキノコの役割を説明。次にミズナラやトドマツの種について説明すると子供達は足下の種を探すのに夢中でした。そして、聴診器で木の音を聞く体験ではどの子も真剣な顔をして聴診器を幹に押し当てていました。また、歩道沿いには数十年に一度しか咲かない笹の花が咲いていて先生達も感激していました。



森の中に突然現れるボンホロ沼は雪解けの水が溜まってできる沼で、春先のこの時期にしか見ることができず幻の沼と呼ばれています。水辺にはオタマジャクシ(エゾアカガエル)が群をなしていて、子供達は大喜び。

次いでエゾハルゼミの大合唱の中、プユニ岬に移動しました。ここでは、雪の残る知床連山を背景にエゾシカの生活について説明し子供たちは職員が持参したシカの角を珍しそうに触っていました。

今回の森林教室ではボンホロ沼周辺の緑に覆われた森林とプユニ岬の明るい森林とを見せることにより多様な森林の働きをPRする事が出来ました。



# 知床は今

エゾヤマザクラが咲き、木々の芽がほころび、思う間もなく、瞬く間に辺りの緑が濃くなり、エゾハルゼミがにぎやかに鳴き、すっかり夏の様相です。新緑が深まった6月上旬に、ウトロ市街を抜け知床林道に向かいました。

斜里町市街からウトロへ向かう国道の途中にあるオシッコシンの滝は、断崖から水飛沫を上げて落ちる納涼味満点の滝で、今年

は水量が多く、途中から流れが2つに分かれていることから「双美の滝」とも呼ばれています。また、滝の上にある展望台からは青く澄んだオホーツク海や残雪の知床連山を遠望することができます。さらに進み、ウトロ市街入り口にある、亀に似ているこの岬、は西側から見ると、その形から亀岩と呼ばれています。知床自然センターに車を止め、2 kmほど海に向かい遊歩道を行くとウトロ灯台があ



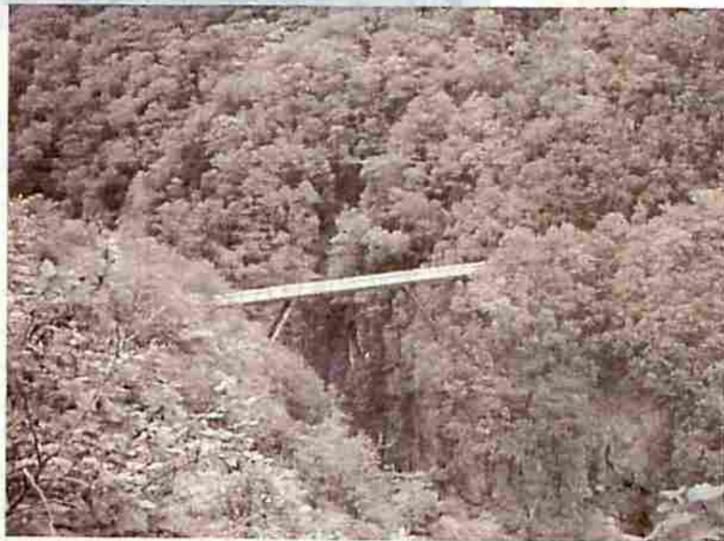
り、この崖から海に注ぐフレベの滝があります。川から落ちるのではなく、知床連山に降った雪と雨が地下に浸透してここに湧き出ている、ホロホロと流れ落ちる様が涙に似ているところから、地元では「乙女の涙」という愛称で親しまれています。展望台向かいの崖には、ウミウやセグロカモメのコロニーが見られ親鳥が子育て中です。

湾にはイワツバメが舞っていました。さらに道々知床公園線を進むと緑に覆われた

カムイワッカ川が湯気をあげて流れ、上流には、活火山である知床硫黄山中腹から湧き出る温泉が川に流れ込み、数段ある滝壺がそのまま露天風呂のようになっています

この道は硫黄沢にかかる知床大橋で一般の車両は通行止めになり、この先の知床林道は特定車しか通れません。

終点までの途中にある硫黄山から流れるウブシノッタ川に掛かる硫黄山橋は、新緑に埋もれるように緑に包まれ、ひっそりとしていました。



## エゾシカによる樹木食害調査 (速報)

### イチイの被害拡大

当センターでは、H9年12月より毎年ウトロ地区のイチイ遺伝資源保存林でエゾシカによる樹木食害調査を行っています。

樹木食害とはエゾシカが樹木の皮をはぎ取り食べてしまうことで、樹皮を全周食べられると樹木が枯れてしまい、林業被害の拡大や森林生態系のバランスが崩れる可能性もあり問題になっています。

樹木食害の調査方法は、調査区面積 7.65ha の全域を調査し、春期は昨年から今年の春にかけて食害を受けた樹木を調査し、秋期は今シーズン食害を受け枯死した樹木を調査しています。オヒョウとイチイについては特に被害が拡大していることから無食害木を含めた総本数を調査しています。

今回は H12年春期の調査結果を報告します。

H12年までの積算食害木本数は1054本となり、その内 H12年の新たな食害本数は 106本となりました。

表-1 樹種別食害本数割合

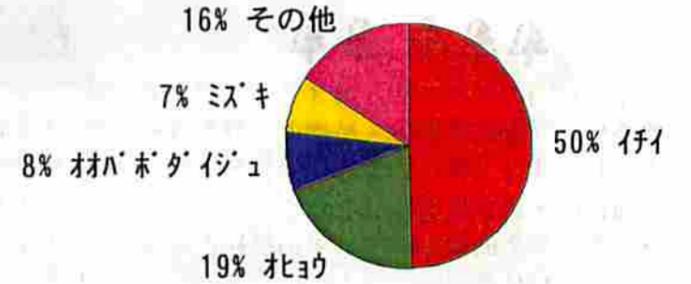


表-1は食害木(1054本)の樹種別割合をあらわしています。

イチイが食害木全体の50%と最も多く被害を受け、次いでオヒョウ、オオバボダイジュと続いています。

表-2はイチイとオヒョウの総本数に占める食害発生率の積算割合を年毎にあらわしています。

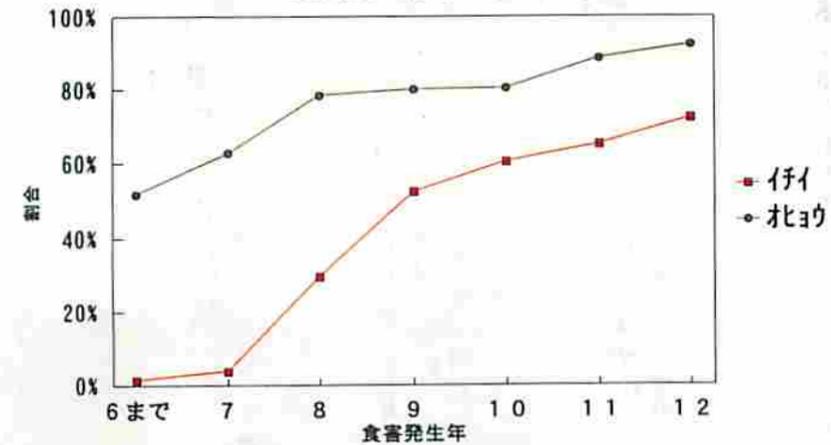
H12年になるとオヒョウ全体の92%が食害を受けほぼ全滅に近い状況になっています。

イチイについてはイチイ全体の72%が食害

を受けており、調査区内では過去に食害されたイチイの食害範囲が新たに拡大しているものも多く見られました。

調査区内では北大がエゾシカの忌避剤の試験を行い経過を調査しており、当センターでもイチイに金網を巻くなど防除対策の検討をしています。

表-2 食害発生推移 (積算割合)



食害発生推移 (積算割合)							
食害発生年	6まで	7	8	9	10	11	12
イチイ	1%	4%	29%	52%	60%	65%	72%
オヒョウ	52%	63%	78%	80%	80%	89%	92%